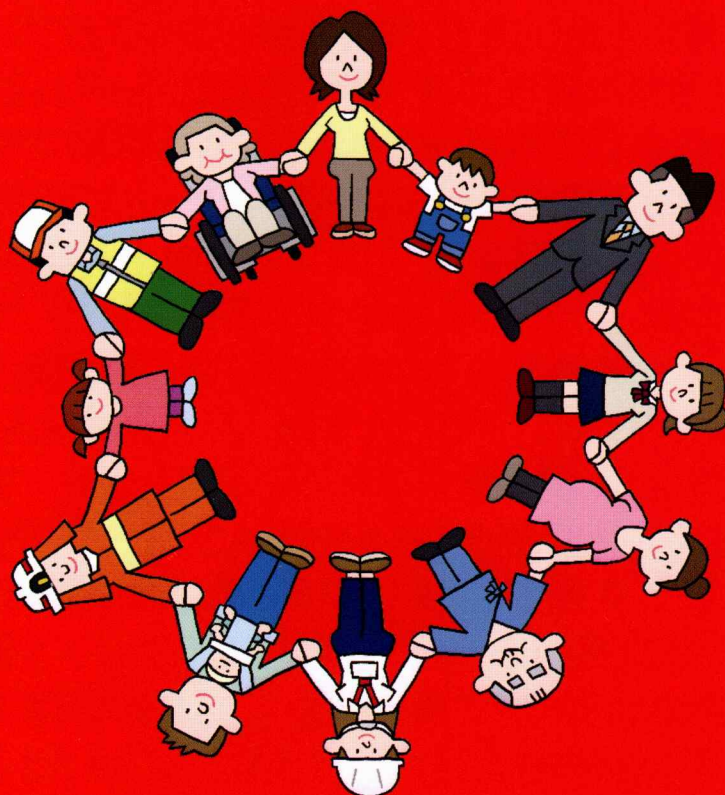


保存版

自身や家族を守るために

自然災害 に備える



大和町連区地域づくり協議会

発刊に寄せて



一宮市長 中野 正康

大和町連区地域づくり協議会の皆さまには、日頃から一宮市の行政運営にご協力いただくとともに、地域の活性化にご尽力いただき、誠にありがとうございます。このたびは、皆さまの知見が集約された冊子「自然災害に備える」が発刊されると伺い、市内23連区の中で最も多い約4万2千人の方がお住いの大和町連区で、本冊子の発行をはじめとした防災・減災への積極的な取り組みを実践していただけていることを大変心強く感じています。

さて、2024年の元日に発生した能登半島地震の直後には、一宮市からも救助隊を派遣しましたが、高速道路は通行できても、その先の道路が寸断し、被災地に到着するまでの道のりは大変困難を極めました。また、将来発生するといわれている南海トラフ地震に関しても、2024年8月に初めて臨時情報(巨大地震注意)が発表され、不安が以前にも増して高まってきていると感じます。市内で大きな被害が発生した際、高速道路ネットワークの充実した大和町連区には救助や復旧支援の拠点として大きな期待がかかります。一宮市では今後の災害に備え、2024年度にバリアフリーのトイレトレーラーを導入しました。2025年度には避難所となる各小中学校に防災倉庫を増設し、パーティションや簡易ベッドなど、機材の備蓄を増強するとともに、順次、中学校の屋内運動場への空調設備の整備を進めます。また、ペットを同行して避難した方の受け入れにも対応します。その他、DX(デジタルトランスフォーメーション)の一環として、デジタル技術を活用し、避難所での受け付け作業をスムーズに行うことができるよう整備を進めます。しかしながら、行政ができることには限りがあります。ご自身で備えていただく「自助」、地域で備えていただく「共助」が何より重要になります。大和町連区が継続的な活動において、より一層安全・安心な地域となっていくことを祈念するとともに、今後ともお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。

2025年 12月 吉日

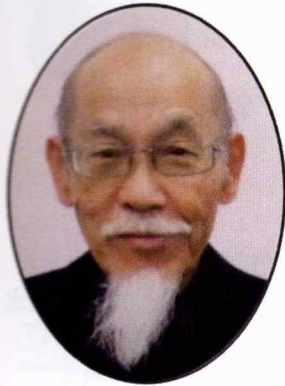
一宮市長 中野 正康

目 次

	P.
<input type="checkbox"/> 発刊に寄せて	
<input type="checkbox"/> 目 次	
<input type="checkbox"/> はじめに	3
<input type="checkbox"/> 0-① 自然災害とは	4
<input type="checkbox"/> 0-② 自然災害による死者・行方不明者数 2025年版防災白書	5
<input type="checkbox"/> 0-③ 昭和20年以降の主な自然災害の状況 2025年版防災白書	6
<input type="checkbox"/> 0-④ 水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)	7
<input type="checkbox"/> 0-⑤ 取り組もう！ 防災・減災の安全安心な地域づくり	8
<input type="checkbox"/> 1.気象庁発表の警報・注意報など	9
<input type="checkbox"/> 2.気象災害に関する用語 気象庁	10
<input type="checkbox"/> 3.避難のタイミング	11
<input type="checkbox"/> 4.「大雨特別警報」 線状降水帯 内水氾濫	12
<input type="checkbox"/> 5.土砂災害	13
<input type="checkbox"/> 6.伊勢湾台風	14
<input type="checkbox"/> 7.台風	15
<input type="checkbox"/> 8.風水害への備え	16
<input type="checkbox"/> 9.御嶽山噴火	17
<input type="checkbox"/> 10.大津波警報・津波警報・津波注意報	19
<input type="checkbox"/> 11.地震への備え	20
<input type="checkbox"/> 12.長周期地震動、緊急地震速報	21
<input type="checkbox"/> 13.濃尾地震	22
<input type="checkbox"/> 14.愛知県の地震	23
<input type="checkbox"/> 15.南海トラフ地震	24
<input type="checkbox"/> 16.家具転倒防止 感震ブレーカー設置	25
<input type="checkbox"/> 17.液状化現象 一宮市地震被害想定	27
<input type="checkbox"/> 18.避難所はどんなところ	28
<input type="checkbox"/> 19.発災時の行動&避難の流れ	29
<input type="checkbox"/> 20.指定緊急避難場所 緊急避難場所 指定避難所 補助避難所 大和町連区	30
<input type="checkbox"/> 21.いざという時のために備えを	31
<input type="checkbox"/> 22.地震 そのとき10のポイント	33
<input type="checkbox"/> 23.自主防災組織(自主防災会)	34
<input type="checkbox"/> 24.助け合いの仕組みづくり	35
<input type="checkbox"/> 25.自主防災会構築のために！	36
<input type="checkbox"/> 26.建物火災	37
<input type="checkbox"/> 27.放火火災	38
<input type="checkbox"/> 28.応急手当	39
<input type="checkbox"/> 引用文献など	40
<input type="checkbox"/> 大和町連区地域づくり協議会	41

〈備考〉 : 主に地震に関する項目

はじめに



部会長 太田 一弘

一宮市は、これまで多くの災害を経験してまいりましたが、1959年(昭和34)の伊勢湾台風も軽微でした。(海部地域の児童生徒さんを一時避難の受け入れをしました)。2000年(平成12)の東海豪雨災害でも他市に比べ実に軽微にすみしました。そのためか住民の心の内には 当地は「災害はやってこない」という考え方が広がっています。

然しながら、近年は国の内外で地震や台風・線状降水帯などによる被害が少しずつ身に迫ってまいりました。併せて住宅周辺の田畑も減り、水の行き場が少なくなって道路が冠水する傾向にあります。

災害が起きるたびに防災担当者や有識者・報道機関でさきやかれるのは、「行政の力には限界がある」という現実です。

例えば、1995年(平成7)1月に発生した「阪神・淡路大震災」では、救助された人の8割弱が、地域住民の手により救出されました。近年、南海トラフ巨大地震(30年以内にM8~9クラス地震)が60%~90%程度以上の確率で発生すると予測されています。併せて梅雨前線台風が合わさったり、線状降水帯による短時間に最大量の雨(一日)が降り、集中豪雨災害が報道機関で見聞きしている昨今です。

連区内平均高齢化率25.7%と高齢世帯の増加が目に見えています。「連区内における災害時の自主防災会(平成3年~13年)のあり方」について、2019年(令和元)より研修会を開催、また、一方では町内会と民生児童委員で要支援者台帳の完成に向けて活動しています。

この度、『自然災害に備える』を作成すべき取り組みを開始しました。このハンドブックは、住民の皆さんの防災・減災の心構えや備えについての準備の一助になればと思います事と隣人の昔のつながりが進み、コミュニティーへ進むことを願っています。各町内の自主防災組織の活動にお力をお貸し下さいますようお願い申し上げます。

感謝

大和町連区地域づくり協議会 自主防災部会長 太田 一弘

近づく大災害に自身は何を備えるか。

決して遅くはありません。今から少しずつでも備えましょう！